

相模原市における新たな火葬場の展望

— 新たな火葬場のあり方に係る提言書 —

平成25年3月

相模原市新たな火葬場のあり方等検討委員会

目 次

はじめに	1
1 火葬需要の現状と予測	2
1-1 相模原市営斎場の現況	2
1-2 将来の火葬需要の予測	5
1-3 葬儀に対する意識、式場・火葬施設に関するアンケート	6
2 相模原市の火葬及び市営斎場の課題 - 将来の火葬需要への対応 -	10
3 【課題解決の方向】市営斎場の機能拡充	12
4 【課題解決の方向】新斎場の整備	13
4-1 位 置	13
4-2 機 能	14
4-3 事業手法等	15
5 【課題解決の方向】周辺の火葬場の利用	16
6 【課題解決の方向】安心のための相談機能	16

資 料

資料1 相模原市新たな火葬場のあり方等検討委員会規則	17
資料2 相模原市新たな火葬場のあり方等検討委員会委員名簿	19
資料3 相模原市新たな火葬場のあり方等検討委員会の開催状況	20

参 考 資 料

参考資料1 相模原市営斎場の施設・設備の概要	21
参考資料2 相模原市営斎場の年間経費	22
参考資料3 他市の火葬施設の火葬炉使用料の状況	23
参考資料4 葬儀に対する意識、式場・火葬施設に関するアンケート調査報告書	24

は じ め に

相模原市の市営斎場は、平成4年10月の開設以来、市民や近隣他市の火葬需要に対応してきております。しかし、高齢化の進展や平成18年及び19年の津久井地域との合併に伴う人口規模の拡大などを背景に、火葬件数が増加し、希望の日時で火葬が行えない状況も生じております。

こうした現状に対して、相模原市新たな火葬場のあり方等検討委員会では、平成23年11月に設置されて以降、市営斎場を取り巻く課題を明らかにするとともに、その解決方策について協議を行ってまいりました。

委員会には、市民生活に関わりの深い団体から選出された委員や、公募の委員、研究者など、さまざまな立場から委員が参加しており、本市の火葬を取り巻く現状を把握し、将来の火葬需要を推計するとともに、市民の葬儀に対する意識・動向に関するアンケート調査を実施しました。

一方、市民レベルでは、人生の最期をより良いものとするための「終活」への関心が高まっており、NPO等によるエンディングノートなどの取組みも広がっております。このような傾向を考慮し、私たちは、従来の火葬場の閉鎖的なイメージから脱却し、施設のあり方そのものを刷新する「新しい火葬場の展望」を目指して、それぞれの立場から活発な議論を重ねてまいりました。

全9回にわたる委員会を通じて、市営斎場の機能拡充、新たな斎場の整備、周辺の火葬場の利用及び安心のための相談機能などについて課題解決の方向をまとめあげました。

この委員会の提言内容を十分尊重し、市民の誰もが安心して人生の終焉の時を迎えられるよう、環境を整えていくことを期待しております。

最後に、この提言書をまとめるにあたりご協力をいただきました関係者及びアンケートに協力いただきました市民の皆様に、心より感謝を申し上げます。

平成25年3月

相模原市新たな火葬場のあり方等検討委員会
委員長 後藤 純 雄

1 相模原市の火葬需要の現状と予測

相模原市における火葬関連問題を明らかにするために、まず、市営斎場の需要状況を調べ、将来の火葬需要を予測した。火葬需要の現状に関しては、相模原市営斎場の火葬状況調査データを使用した。また、火葬需要の予測については、国勢調査結果による人口変動予測データから火葬件数を推計するとともに、市民の葬儀に対する意識・動向に関するアンケート調査結果を使用した。

1-1 相模原市営斎場の現況

(1) 火葬件数の現状

図-1(a)に本市の人口及び死亡者数とともに、相模原市営斎場における市民の火葬件数の推移を示した。人口は毎年平均でおよそ3,000人、火葬件数は毎年平均で200件ほど増加しており、市民の死亡者数、火葬件数ともに増加傾向であることが分かった。

図-1(b)については、市外からの相模原市営斎場の利用件数及び本市市民による市外の火葬施設の利用件数の推移を示したものである。平成23年度における市外からの利用は661件であり、本市から市外の火葬施設の利用は616件で、このうち津久井地域が260件、旧市が356件となっている。両者とも増加傾向であることが分かった。

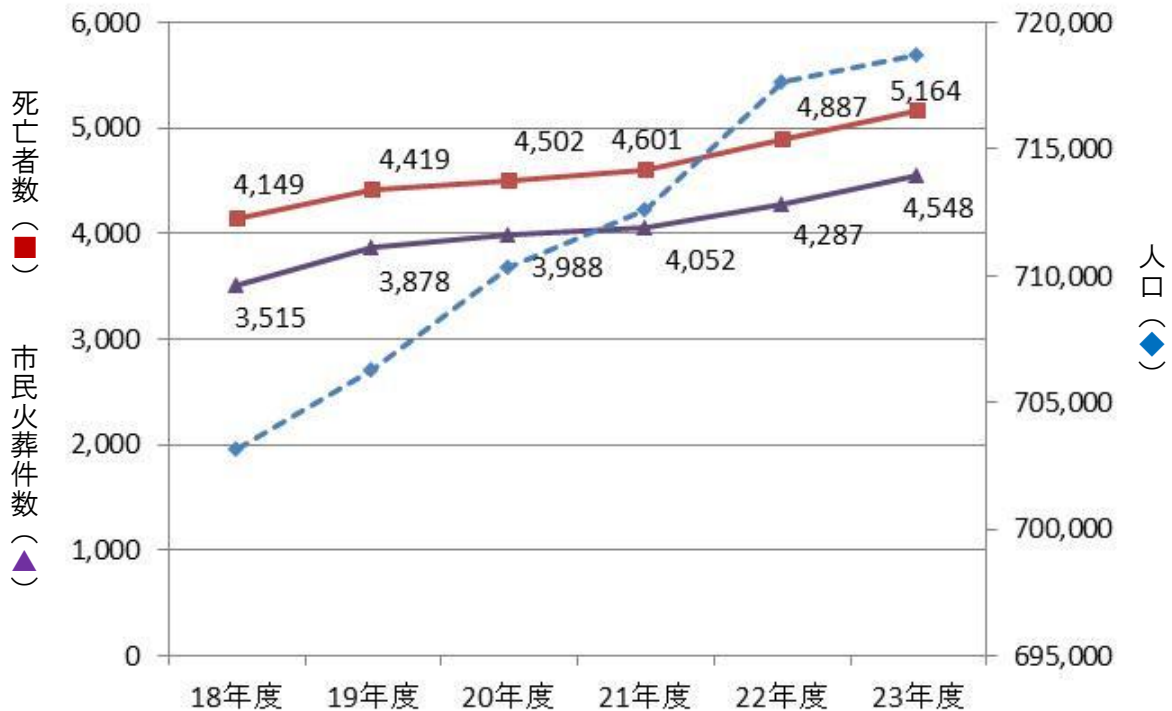


図-1(a) 市営斎場における市民火葬件数、死亡者数及び人口の推移（一般死体）

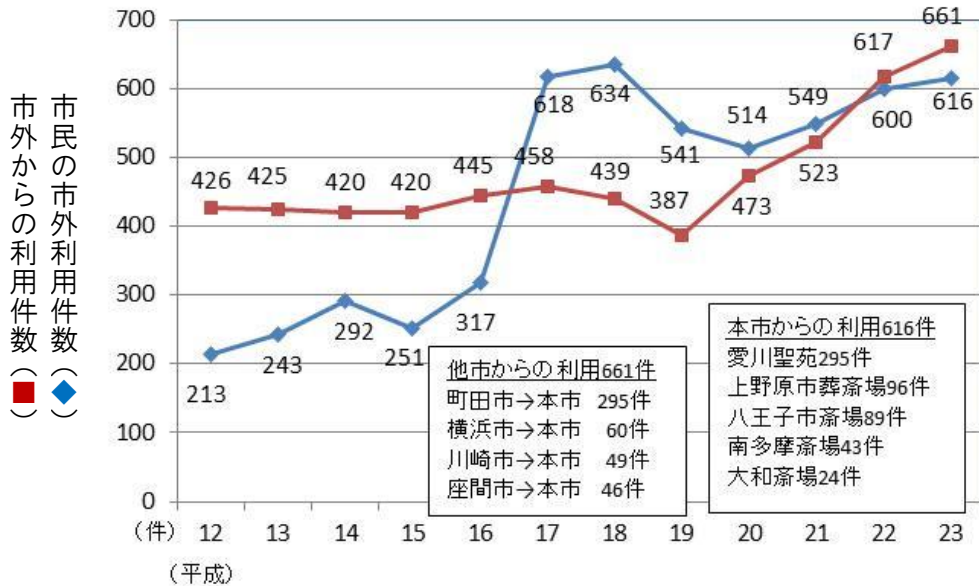


図-1 (b) 市外からの市営斎場の利用件数及び本市市民による市外の火葬施設の利用件数

(2) 火葬炉の予約から火葬までの日数

図-2は、市営斎場における火葬炉の予約から火葬までの日数の推移を示したもので、一年の中で混雑度の高い11月・12月・1月と混雑度の低い4月・5月・6月の期間におけるニーズの高い正午前後の11時30分、12時30分、1時30分の時間帯での平均値を示したものである。なお、図の下(*)には当該日数の計算例も併せて示してある。この図から、平成24年度の11月から1月の正午前後の時間帯では、平均3.8日となっており、年々増加していることが認められる。また、同年の4月から6月では平均2.9日となっており、この期間において増加傾向にあることが認められた。

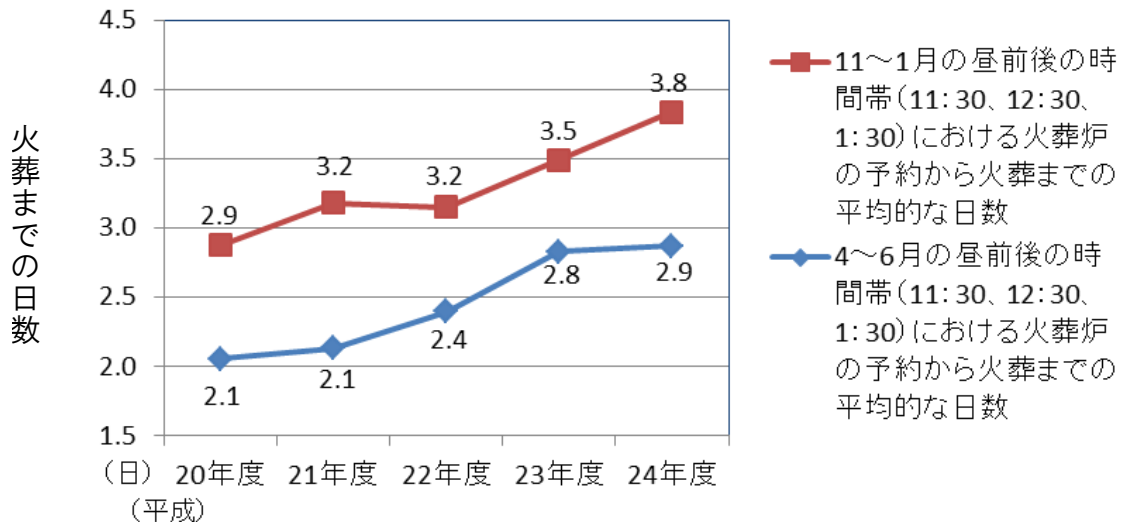


図-2 火葬炉の予約から火葬までの日数の推移

*火葬炉の予約から火葬までの日数が4日の計算例 (予約の翌日は日数0として計算)

曜日	月	火	水	木	金	土	日
内容	予約				通夜	告別火葬	
火葬までの日数		0	1	2	3	4	5

(3) 待合室の利用の現状

図-3は、市営斎場の年間の待合室利用者数と1組当たりの利用者数の推移を示したものである。待合室利用者数は増加傾向にあるが、一方、待合室を利用した会葬者の一組当たりの平均人数は減少傾向にあることが認められた。

なお、図-4には、平成23年度における待合室利用者の1組当たり利用者数の分布状況を示してある。1組あたりの平均員数が19.4人（平成23年度）であっても、1組当たり11人から20人での利用が最も多く、次いで1人から10人となり、20人以下での利用が約60%を占めることが分かった。



図-3 年間の待合室利用者数と待合室利用者の一組当たり人数の推移

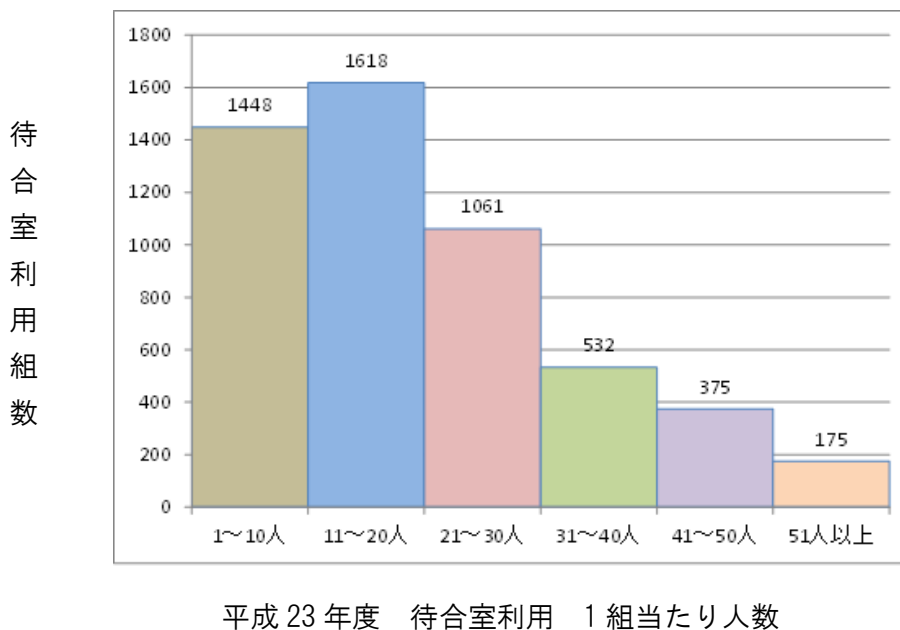


図-4 平成23年度 待合室利用者の1組当たり利用者数の分布状況

(4) 市営斎場の位置の状況

図-5 に、市営斎場の位置を示した。津久井地域との合併により、市域が西側に拡大し、市営斎場の位置の偏りが顕著になっており、市営斎場へのアクセスに時間がかかる地区があることが分かる。

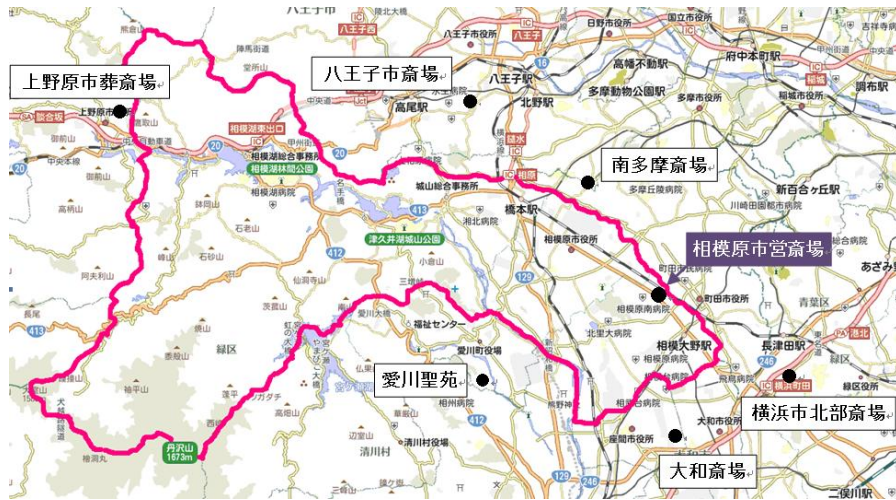


図-5 市営斎場の位置の状況図

1-2 将来の火葬需要の予測

相模原市の平成22年国勢調査結果に基づいて、市民の将来の死亡数及び火葬件数（死亡数の90.2%として算出）の推計を行った。図-6には、平成72年度までの死亡者数と火葬件数の予測を含めた推移を示した。図-6から、平成54年には市民死亡者数が9,822件に達し、以後、推計最終年次である平成72年の9,744件までほぼ横ばいで継続することが見込まれた。このため、市民火葬件数（需要）も平成54年に9,036件に達し、以後、平成72年の8,964件まで同様に推移すると見込まれた。

一方、相模原市営斎場の一日当たりの火葬枠は最大19件であり、年間の火葬枠の限度は6,324件となることから、図-6のとおり平成32年には市営斎場の年間の火葬の限度に到達する見通しとなることが分かった。

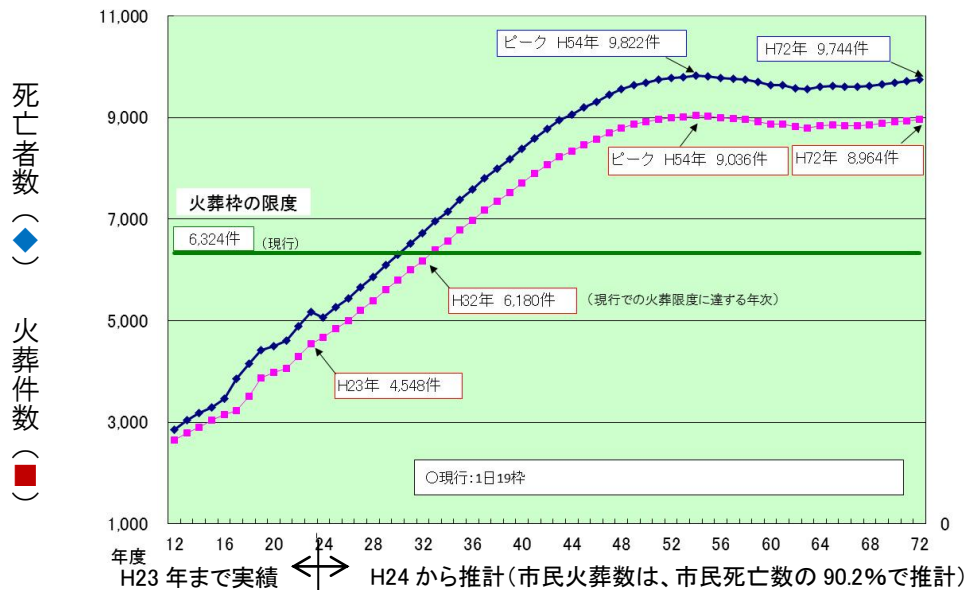


図-6 火葬件数の将来推計結果

1-3 葬儀に対する意識、式場・火葬施設に関するアンケート

市民の葬儀に対する意識や動向などを分析するため、相模原市在住の20歳以上の方の中から任意抽出した男女3,000人を対象に、平成24年12月6日から同27日までの間でアンケート調査を実施し、1,537人、51.2%の方より回答を得た。

アンケートの設問数は、年齢、性別などの基本属性を含む15問で、葬儀に対する関心、葬儀を行う場合の希望、葬儀経験の有無と葬儀で利用した施設などを中心に調査を行った。調査結果について、単純集計に加え、クロス集計による分析を行った結果、(1)～(9)のような傾向(◎は主要なもの)が認められた。なお、アンケートの表記について、本提言書では表-1のとおり表記する。

表-1 葬儀形式の分類と今回の表記

アンケートでの表記	今回の表記
通夜・告別式等を行い、参列された方々で故人をお見送りする葬儀	従来型
家族、親族やごく親しい方々のみで通夜・告別式等を行い、故人をお見送りする葬儀	家族葬
通夜は行わず、火葬当日に告別式を行い、故人をお見送りする葬儀	一日葬
通夜・告別式等を行わず、火葬だけを行い、故人をお見送りする葬儀	火葬式

(1) 問5「葬儀に対する意識」について(家族葬、一日葬、火葬式への関心)

◎主な傾向(単純集計)

- ・家族葬への関心は非常に高い。「かなり関心がある」と「少し関心がある」を合わせると、約85%の方が関心を示していた。
- ・特に、家族葬に「かなり関心がある」の割合が、一日葬、火葬式の「かなり関心がある」の割合を大きく上回っていた。

○クロス集計からみえる傾向

問1「年齢」、問2「性別」とのクロス集計からは、次の傾向がみられた。

- ・家族葬への関心は、年齢別では50歳代、60歳代が非常に高く、性別では女性の方が高い傾向にあった。

(2) 問6「家族の葬儀の希望」について(従来型、家族葬、一日葬、火葬式)

◎主な傾向(単純集計)

- ・家族葬の希望が多く、従来型の2倍の割合となっていた。
- ・問5「葬儀に対する意識」で、一日葬に「かなり関心がある」割合は16.9%

であったが、家族の葬儀での選択は7.4%であり、実際の選択にはつながっていない傾向があった。

- ・火葬式も同様で、「かなり関心がある」割合は16.9%であったが、家族の葬儀での選択は、6.6%にとどまっており、実際の選択にはつながっていない傾向があった。

○クロス集計からみえる傾向

問1「年齢」、問2「性別」、問3「世帯構成」とのクロス集計からは、次の傾向がみられた。

- ・年齢が高くなるほど家族葬を選択する割合が高くなり、若い年齢では従来型を選択する割合が高くなった。
- ・家族葬、一日葬では、葬儀への関心の割合と同様に女性のほうが男性より高かった。
- ・従来型の選択割合は、3世代世帯が全世帯区分の中で最も高かった。
- ・家族葬の選択割合は、夫婦世帯が全世帯区分の中で最も高かった。

(3) 問7「自分の葬儀の希望」について（従来型、家族葬、一日葬、火葬式）

◎主な傾向（単純集計）

- ・家族葬の希望が多いが、家族の葬儀に比べて従来型と家族葬を占める割合が減り、火葬式と家族の意向に任せる割合が増加していた。
- ・一日葬を希望する割合の増加がわずかであったのに対し、火葬式の希望の増加が顕著であったことから、自分の葬儀に対する負担の軽減の意向がうかがえた。

○クロス集計からみえる傾向

問1「年齢」、問2「性別」、問3「世帯構成」とのクロス集計からは、次の傾向がみられた。

- ・20歳代・30歳代は家族葬に次いで従来型の選択割合が多いが、40歳代から70歳代は火葬式の選択割合が高くなっていった。
- ・女性は、「家族の葬儀の希望」（4-2）では、家族葬に次いで従来型の希望が多かったが、自分の葬儀については、従来型が減り、火葬式の希望割合が高くなっていった。
- ・夫婦世帯、単身で子か親と同居の世帯及び単身世帯では、家族葬に次いで火葬式を希望する割合が高く、2世代世帯では、家族葬に次いで、「家族の意向に任せる」割合が高くなり、3世代世帯では、家族葬に次いで従来型が多かった。

(4) 問9「葬儀経験者の葬儀場所の選択」について

◎主な傾向（単純集計）

- ・葬儀経験者が選択した葬儀場所は、民間の斎場（式場）が50%と最も多く、市営斎場（式場）を利用した方は20%で、他市の公営斎場と合わせ、約33%の方が公営斎場を利用していた。

なお、平成23年度実績※では、市民の市営斎場の式場利用割合は14.6%

であることから、市営斎場利用については、やや高めの数値となっていた。

※[平成23年度]	式場使用件数	666件（通夜）
	市民火葬件数	4,548件

(5) 問10「葬儀で利用した施設を選んだ理由」について

○クロス集計からみえる傾向

問9「葬儀で利用した施設」、問10「葬儀で利用した施設を選んだ理由」のクロス集計からは、次の傾向がみられた。

- ・式場で「市営斎場」及び「他の公営斎場」を使った理由は、安心感、料金の割合が高かった。
- ・式場利用の半数は「民間の斎場」で、特に利便性で選択されていた。
- ・「他の施設が空いていなかった」という理由で「民間斎場」や「公営斎場」を利用するケースは少なかった。

(6) 問11「火葬に利用した施設」について

◎主な傾向（単純集計）

- ・約59%の方が市営斎場を利用し、約36%の方が市外の火葬施設を利用している。

なお、平成23年度実績※では、市民の市営斎場利用の割合は88.1%であることから、低めの数値となっている。

※[平成23年度]	市民死亡件数	5,164件
	市民火葬件数	4,548件

○クロス集計からみえる傾向

問4「居住地区」とのクロス集計からは、次の傾向がみられた。

- ・津久井地域では、津久井地区が75%と最も高く、次いで城山地区、相模湖地区が50%となっており、藤野地区は約22%となっていた。
- ・市外の火葬施設の利用率が高い地区は、藤野、田名、東林地区など各地区に分散していた。

(7) 問12「葬儀経験者の市外火葬施設の選択理由」について

◎主な傾向（単純集計）

- ・最も多い理由は、「市外で亡くなった」で66.4%、次いで「市外の火葬施設が近かったから」で17.9%となっていた。

○クロス集計からみえる傾向

問4「居住地区」とのクロス集計からは、次の傾向がみられた。

- ・市外の火葬施設が近いという理由を選択した件数は藤野地区が最も多いが、津久井地域を中心に各区に分散していた。

(8) 問13「市営斎場までの所要時間」について

◎主な傾向（単純集計）

- ・市営斎場までの所要時間の希望は、1時間以内が95.7%で、そのうち30分以内の希望は、50%となっていた。

○クロス集計からみえる傾向

問4「居住地区」とのクロス集計からは、次の傾向がみられた。

- ・「30分以内」の回答地区は、近隣に他市の火葬施設が立地していた。

(9) 問14・15「市営斎場及び火葬場のあり方等に係る自由記載」について

○市営斎場の利用に係る不便な点や改善が必要な点などのほか、新たな火葬場の必要性や位置、施設のあり方などの様々な意見が出された。

特に、問14の関係では、「市営斎場を知らない」、「利用方法がわからない」という意見が多く出されており、積極的に情報提供を望む意見も認められた。

2 相模原市の火葬及び市営斎場の課題 ―将来の火葬需要への対応―

これまでの「現状」、「火葬件数の将来推計」及び「葬儀に対する意識、式場・火葬施設に関するアンケート」を通じて明らかになった課題については、次のとおり整理される。大きな課題として「将来の火葬需要への対応」があり、解決の方向性としては「市営斎場の機能拡充」、「新斎場の整備」、「周辺の火葬場の利用」などがあげられる。

相模原市が将来にわたって安定的な火葬業務を提供するためには、火葬需要に対応できる体制の確立が必要となることから、解決の方向性として掲げている「市営斎場の機能拡充」、「新斎場の整備」、「周辺の火葬場の利用」について、協議を行うこととした。

特に、相模原市の火葬件数は、平成54年には9,036件のピークに達し、以後、平成72年まで同程度の水準が続くとともに、平成32年には市営斎場の火葬枠の限度に到達する見通しであることから、短期的には市営斎場の機能拡充が、長期的には新斎場の整備が重要な課題となった。

(1) 市営斎場の機能拡充

火葬件数の増加に伴い、火葬炉の予約から火葬までの期間が、一年の中で混雑度の高い11月・12月・1月の期間におけるニーズの高い正午前後の11時30分、12時30分、1時30分の時間帯では、平均4日程度となっており、この解消を図ることが必要である。このためには、10基ある火葬炉のうち、同時に稼働できるのは待合室の状況から最大6基であるが、同時に稼働できる火葬炉の数を増やすことなどにより、一日当たりの火葬枠の拡大が可能である。また、市営斎場の待合室の利用に係る一組当たりの人数は少数化しており、アンケート結果からも「家族葬」への高い意識がみられるなど、今後、葬儀の少人数化が進むことが想定される状況である。今後の施設の改修等に当たっては、こうした葬儀に対する意識の変化への対応が必要である。

(2) 新斎場の整備

平成22年国勢調査に基づく推計では、市民火葬件数が、平成54年には9,036件のピークに達する見込みである。この件数は平成23年度のおおむね2倍にあたり、平成54年以降も同程度の水準が続く見通しである。このような状況から、新たな火葬場の整備に取り組むことが必要となってくる。

また、新たな火葬場の整備を行うには、位置、機能（火葬能力、式場併設）、財政負担などの検討が主要な課題となる。

○新たな火葬場を整備する際の位置

市営斎場へのアクセスに時間がかかる地域があり、アンケートの結果では、市営斎場までの車利用による移動時間について、1時間以内を希望する割合が約

96%を占めている状況である。火葬場の位置については、関係法令等や市民の利便性などを考慮しながら対応する必要がある。

○機能（火葬能力）

平成54年に見込まれるピーク時の火葬件数への対応と、その後の人口動向を踏まえた対応が必要である。

○機能（式場併設）

利便性を理由とした民間斎場の利用も多い中で、新斎場への式場併設については見極めが必要である。

○火葬や葬儀の変化への対応

新たな火葬場の整備にあたっては、家族構成や地域コミュニティの変化のほか、火葬の小規模化、葬儀に対する意識の変化などへの対応が必要である。

○事業手法等

新たな火葬場の整備には、多額の事業費が必要となることから、事業手法の検討や次世代への負担、火葬炉使用料の有料化なども十分に考慮した対応が必要である。

（3）周辺の火葬場の利用

火葬炉の使用については、市外の火葬施設が近いため、市外を利用することがある。この場合、使用料は実費負担となり、市営斎場を利用した場合との差が生じる。

3 【課題解決の方向】市営斎場の機能拡充

平成32年には、火葬件数が市営斎場の年間の火葬限度に到達する見通しであることから、本委員会ではまず対応可能な火葬枠の拡大方策について検討を行った。

なお、市営斎場の施設規模については拡大しないことが周辺自治会と市の合意事項となっていることから、現在の施設規模を前提として、火葬スケジュール（時間枠）の見直しや、火葬炉の増設、待合室の増設などの案について検討を行った。その結果、火葬枠の拡大については、待合室の増設による方法が適切であると判断した。

具体的には、現在の待合室7室の一部を分割し、合計10室とすることにより、火葬炉の同時稼働を現行の最大6基から8基へと増やすことが可能となることを認めた。（待合室の分割による増数は、待合室利用者が少人数化している傾向にも合致している。）

これにより、推計上、年間の火葬枠の限度が7,674件へと増加し、火葬限度に達する年次を、最大で平成37年から39年頃まで延ばすことが可能と見込まれることから、現実的な対応が可能な「待合室数の増加による火葬炉の稼働率の向上」について、早急に対応することを提言した（平成25年1月）。（図-7 参照）

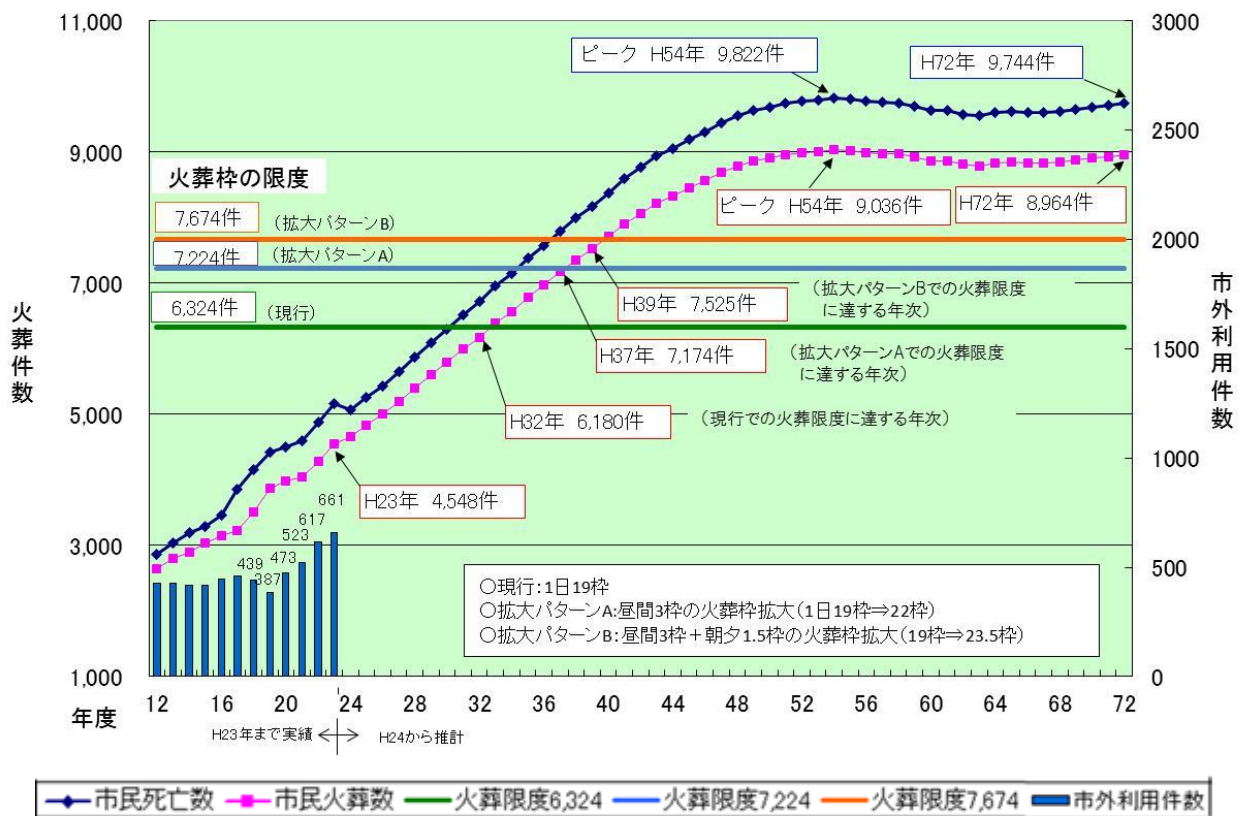


図-7 斎場の待合室の分割増室による火葬枠の拡大及び市外火葬施設利用件数

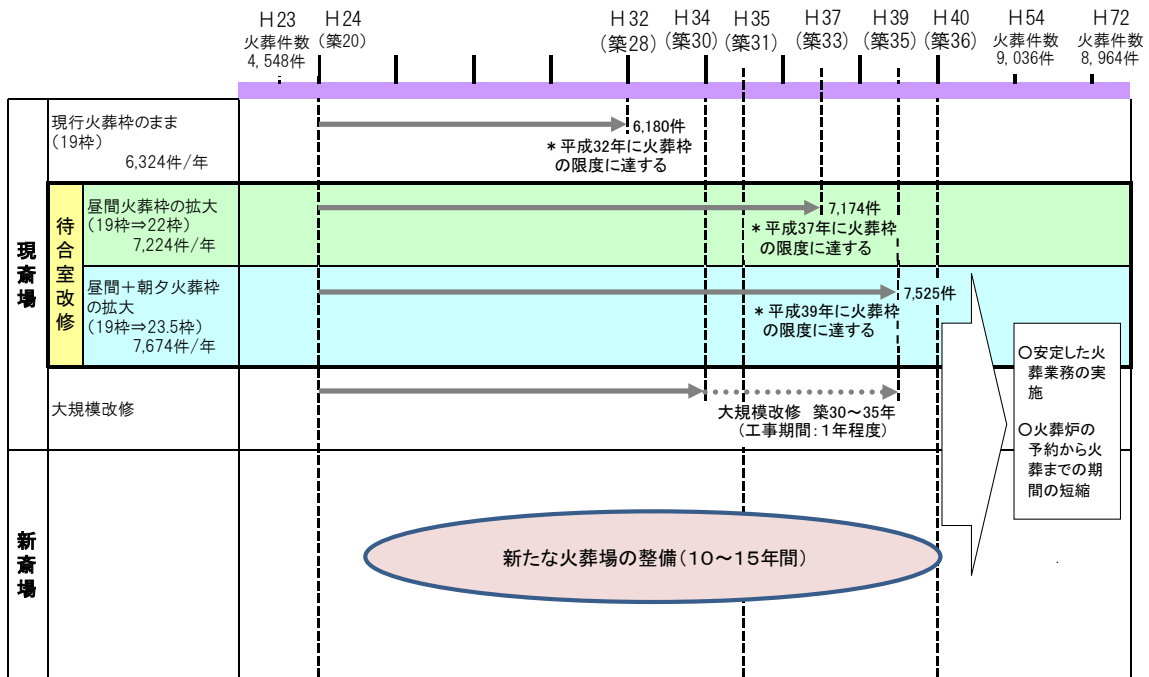
4 【課題解決の方向】新斎場の整備

市営斎場の機能拡充により、一定の火葬枠の拡大が可能となり、最大、平成39年頃まで、火葬枠の限度に到達する年次を延ばすことが可能と見込まれるが、これ以降は、火葬需要が火葬枠を上回ることなどから、将来にわたって安定的な火葬業務を提供するためには、新たな火葬場の整備が必要であるとの結論に至った。

他市の例では、新たな火葬場の整備には10年前後の事業期間を要する状況であり、できるだけ早期に取組みを始める必要がある。従って、新たな火葬場の整備にあたっては、市営斎場の大規模改修の時期なども考慮し、効率的な対応を図ることが望まれる。

このため、新たな火葬場の位置および機能、整備に当たっての事業手法等について、次のとおり提言する。

表-2 火葬場整備時期の検討結果



4-1 位置

火葬場は、市民生活に必要な不可欠な施設であり、他市の例では整備場所（位置）の選定が大きな課題となる施設である。

現市営斎場は津久井地域との合併以前から市の東端部に位置していたが、合併を経て、西側に大きく市域が拡大したことにより、偏りが顕著になった。

また、「葬儀に対する意識、式場・火葬施設に関するアンケート」の結果では、市営斎場までの移動時間（車利用）の希望が、1時間以内という回答がほとんどを占めていた。

これらのことを踏まえると、新たな火葬場の位置については、市内に住んでいる方が新たな火葬場もしくは市営斎場のどちらかに概ね1時間で到達できる距離であることが求められていることから、津久井地域での立地が望ましいと考えられた。

なお、今後の候補地の選定に向けては、現市営斎場の混雑緩和を図る必要性や、関係法令、立地環境、道路環境なども考慮しながら検討すべきである。

また、火葬場は一人ひとりの市民にとって、故人との最後の時を過ごすかけがえのない施設であることから、市民と行政が一体となって整備場所の選定に取り組むことが必要である。施設の設計段階において、市民の参加を求めることは、他の自治体でも広く行われており、今後は、火葬場の整備場所の選定に係る公募や整備手法への提案の手法を導入するなど、市民とともに考える仕組みの検討も必要である。

4-2 機能

(1) 火葬能力

相模原市では、平成23年度に10基の火葬炉で年間4,548件の火葬を行っているが、平成54年のピーク時における火葬件数は、平成23年度の約2倍にあたる9,036件に達する見込みであることから、これらの推計を踏まえつつ、将来の安定的な火葬業務提供を担保する規模とすべきである。

(2) 式場

新たな火葬場の機能や規模に影響する主要素として、式場の併設がある。

政令指定都市や中核市等を対象に行った調査では、回答96施設中、式場を併設している施設は42施設(43.8%)で、5割に満たない状況であり、それぞれに地域の慣習や、従来からの火葬場の形態が大きく影響していることが推察される。

「葬儀に対する意識、式場・火葬施設に関するアンケート」の結果では、式場利用の半数は「民間の斎場」となっており、その理由として半数近い方が「利便性」をあげていた。「市営斎場」を利用した理由は、「安心感」が最も高く、次いで「料金」、「利便性」の割合が高く、「他の公営斎場」を利用した理由は、「安心感」が最も高く、次いで「利便性」が高い状況であった。いずれも「他の施設が空いていなかった」という理由は少ない回答であった。

最近の傾向として、葬儀への参列者は通夜式が多く、告別式や火葬への参列は少ない状況である。このため、新しい火葬場には、利便性という観点での式場併設の必要性は低いものと考えられるが、立地場所周辺の民間式場の状況とともに、福祉的な視点での対応も考慮する必要がある。なお、式場を市街地に整備する場合などは、既存施設のリノベーション(※)なども検討が望まれる。

式場の立地に伴う民間事業者と地域との摩擦をできるだけ避けるために、「相模原市斎場の設置に関する指導基準」(施行日平成16年6月1日)が定められており、民間事業者には、なお一層地域への配慮を求めていく必要がある。

※リノベーション：既存の建物に大規模な改修工事を行い、用途や機能を変更して性能を向上させたり価値を高めたりすること。

(3) 火葬や葬儀の変化

新たな火葬場の整備にあたっては、待合室や炉前ホールなどの検討において、家族構成や地域との関係性の変化のほか、火葬や葬儀の小規模化に対する意識の変化などを考慮する必要がある。

市営斎場の待合室の利用状況では、一組当たりの人数の少人数化が進んでおり、「葬儀に対する意識、式場・火葬施設に関するアンケート」の結果においても少人数化の傾向が見込まれる状況である。したがって、新たな火葬場の整備にあたっては、家族葬や火葬の小規模化を十分考慮した対応が必要である。また、最近の葬儀は、従来の枠にとらわれない新しい形もみられることから、葬儀を取り巻く状況の変化を踏まえた検討が望まれる。

(4) 地域と共存し市民に親しまれる施設とするために

火葬場は、誰もが人生の最後に利用する施設でありながら、日常においては敬遠されやすく、このため閉鎖的な環境に置かれることが多い。

しかしながら、火葬場は故人とのお別れを行うかけがえのない時を過ごす施設であり、新たな火葬場の整備にあたっては、これまでのいわゆる迷惑施設から脱却し、地域と共存し、市民に見守られ、親しまれていくような火葬場の地位を確立する必要がある。

このため、新たな火葬場については、歴史・景観にふさわしい意匠や、地域に溶け込むような環境の整備により、市民が自由に往来し、憩い、利用できるような地域に開かれた施設となるよう、積極的に検討することが望まれる。

4-3 事業手法等

新たな火葬場の整備には、多額の事業費が必要となることから、次世代への負担なども十分に考慮した対応が必要であり、事業費の精査を行うとともに、PFI(Private Finance Initiative)など、様々な整備手法について検討を行うべきである。

また、市民の火葬炉の使用料については、政令指定都市や中核市など、計115施設のうち、89施設が有料であり、また、政令指定都市では20市中、15市が有料としている状況である。

相模原市では、「受益者負担の在り方の基本方針」に基づき、全庁的な見直しが進められており、市営斎場も見直しの対象になっている。本委員会としては、使用料、手数料などを取り巻く今日的な議論に照らすと、市営斎場の使用料も受益者負担を検討すべきと考える。しかしながら、希望すれば市民の誰もが等しく選択できる施設であり、単なるコストに応じた有料化の議論には馴染まないとの意見もあり、有料化について、今後一層市民の議論を深める必要がある。

5 【課題解決の方向】 周辺の火葬場の利用

市外の火葬施設の利用については、「葬儀に対する意識、式場・火葬施設に関するアンケート調査」の結果によると、「他市で亡くなった」ことを理由とするものが最も多く、また、近隣の火葬施設の利用については、「近い」ことを理由とした市外施設の利用が各地区に分散している回答であった。

平成23年度における市外の火葬施設の利用は616件で、このうち津久井地域が260件、旧市が356件となっており、旧市においても様々な理由で市外の火葬施設が選択されていた。

このため、市外の火葬施設を利用した場合の火葬費に対する助成等の実施については、市外の火葬施設を自ら選択した場合と、やむを得ず利用した場合の実際の区別が難しく、対象とすべき施設や対象者の範囲なども絞り込みが難しいため、課題が多いものと考えた。

6 【課題解決の方向】 安心のための相談機能

「葬儀に対する意識、式場・火葬施設に関するアンケート調査」の自由意見においては、「市営斎場を知らない」、「利用方法がわからない」という意見が多く出されており、積極的に情報提供を望む意見も見られる状況であった。

高齢者が増加し、報道等で「多死社会」とも表現されている今日にあって、「人生の最期をより良いものとするための事前準備」としての、いわゆる「終活」への取り組みが、今後ますます進むものと見込まれる。

市民の誰もが、火葬や葬儀という非日常的なことへの不安を解消し、安心して人生の終焉を迎えることができるよう、市の広報紙、ホームページ及びまちかど講座などを通じた、葬儀についての積極的な情報発信への対応が必要である。

また、これまでも消費生活センターでは、葬祭などに関する相談に対応してきているが、今後は、市役所内での協働、すなわち事前の相談窓口、死亡届の窓口、斎場の受付窓口、及び福祉の窓口の横断的な連携による総合的な支援体制の構築も課題である。

資 料

1	相模原市新たな火葬場のあり方等検討委員会規則	17
2	相模原市新たな火葬場のあり方等検討委員会委員名簿	19
3	相模原市新たな火葬場のあり方等検討委員会の開催状況	20

資料 1 相模原市新たな火葬場のあり方等検討委員会規則

(設置)

第 1 条 附属機関の設置に関する条例(昭和 37 年相模原市条例第 17 号)第 2 条第 2 項の規定に基づき、相模原市新たな火葬場のあり方等検討委員会(以下「委員会」という。)を置く。

(所掌事務)

第 2 条 委員会は、新たな火葬場のあり方等の基本構想に関する事項その他必要な事項について、市長の諮問に応じて調査審議し、その結果を答申するものとする。

(組織)

第 3 条 委員会は、委員 10 人以内をもって組織する。

2 委員は、次に掲げる者のうちから市長が委嘱する。

- (1) 学識経験のある者
- (2) 市内の公共的団体等から推薦された者
- (3) 市の住民

(委員の任期)

第 4 条 委員の任期は、平成 25 年 3 月 31 日までとする。

(委員長及び副委員長)

第 5 条 委員会に委員長及び副委員長 1 人を置く。

2 委員長及び副委員長は、委員の互選により定める。

3 委員長は、会務を総理し、委員会を代表する。

4 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるとき、又は委員長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第 6 条 委員会の会議は、委員長が招集し、その議長となる。

2 委員会の会議は、委員の過半数が出席しなければ開くことができない。

3 委員会の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(関係者の出席等)

第 7 条 委員会の会議において必要があると認めるときは、関係者の出席を求め、その意見又は説明を聴くことができる。

(庶務)

第 8 条 委員会の庶務は、火葬場事務主管課で処理する。

(委任)

第9条 この規則に定めるもののほか、委員会の運営について必要な事項は、委員長が委員会に諮って定める。

附 則

(施行期日)

1 この規則は、平成24年4月1日から施行する。

(経過措置)

2 この規則の施行後最初の委員会の会議は、市長が招集する。

(失効)

3 この規則は、平成25年3月31日限り、その効力を失う。

資料2 相模原市新たな火葬場のあり方等検討委員会委員名簿

	氏名	所属等	備考
1	後藤 純雄	麻布大学 教授	委員長
2	池田珠三子	相模原市消費者団体連絡会 副代表	副委員長
3	市古 太郎	首都大学東京 准教授	
4	浮ヶ谷幸代	相模女子大学 教授	
5	大越 孝子	公募委員	
6	小野沢良雄	相模原市自治会連合会 副会長	
7	勝乗 貞行	公募委員	
8	戸塚 英明	社会福祉法人 相模原市社会福祉協議会 会長	
9	中西 知子	特定非営利活動法人 男女共同参画さがみはら 理事	
10	山田 有紗	相模女子大学 卒業生	

資料3 相模原市新たな火葬場のあり方等検討委員会の開催状況

回次	開催日	出席委員	検討事項等
第1回	平成23年 11月16日(水)	10名	○会議の公開について ○今後の検討事項及びスケジュールについて ○市営斎場の現状と課題について
第2回	平成24年 1月25日(水)	8名	○検討委員会の進め方について ○市営斎場に係る課題と対応について
第3回	3月28日(水)	9名	○相模原市営斎場視察
第4回	5月16日(水)	9名	○市営斎場に係る課題と対応について ○検討委員会での質問事項について ○調査について
第5回	7月3日(火)	8名	○市民アンケート調査等について
第6回	7月21日(土)	7名	○宇都宮市「悠久の丘」(斎場)視察
第7回	平成25年 1月31日(木)	9名	○市営斎場に係る課題と対応について ○提言書の策定について
第8回	2月28日(木)	9名	○市営斎場に係る課題と対応について ○提言書(案)について
第9回	3月28日(木)	9名	○提言案について

参考資料

1	相模原市営斎場の施設・設備の概要	21
2	相模原市営斎場の年間経費	22
3	他市の火葬施設の火葬炉使用料の状況	23
4	葬儀に対する意識、式場・火葬施設に関するアンケート調査報告書	24

参考資料 1 相模原市営斎場の概要

1 施設の概要

所在地	南区古淵 5 丁目 26 番 1 号
敷地面積	22,617 m ²
構造等	鉄筋コンクリート造 地上 2 階 地下 1 階建
建築面積	約 2,942 m ²
延床面積	約 4,224 m ²
火葬施設	火葬炉 11 基(一般用 10 基、胎児炉 1 基 火葬燃料⇒都市ガス) 告別ホール 3 か所 収骨室 3 室
葬儀施設	大式場 (移動椅子 100 脚、控室 24 畳 + 4 人掛けテーブル 1 台) 小式場 (移動椅子 70 脚、控室 18 畳 + 4 人掛けテーブル 1 台)
待合施設	待合室 [和室 6 室(40 名)各室に 4 人掛けテーブル1台、洋室 1 室 (32 名)]、 待合ロビー・売店
霊安室	1 室 (保管庫 4 基、うち 1 基は式場用)
駐車場	140 台
供用開始	平成 4 年 10 月 26 日

2 斎場の休場日等

<p>・休場日…1 月 1 日～3 日及び市長が定める日。 平成 24 年度は 5 月 7 日及び 10 月 9 日 (規則 2-1 - (2))</p> <p>・施設の休業日</p> <p>① 火葬炉を使用することができない日…月一回を基準とし市長が定める。平成 23 年度は各月の第 2 友引日。ただし平成 25 年 1 月のみ第 3 友引日。(規則 3-1-(1))</p> <p>② 式場を使用することができない日…火葬炉を使用することができない日の前日の通夜及び当日の告別式での使用はできない。(規則 3-1-(2))</p> <p>・斎場使用予約受付は通年 24 時間対応</p>
--

○火葬炉稼働日は平成 24 年度 348 日。

参考資料 2 市営斎場の火葬炉使用料の積算

平成 23 年度決算ベースでの試算

$$\left(\frac{637,510 \text{ 千円}}{\text{(火葬棟建設費)}} + 243,242,675 \text{ 円} \right) \div 5,209 \text{ 件} \doteq 48,579 \text{ 円}$$

65 年
(斎場の維持管理費)
(年間の件数)(1件あたりの火葬単価)
(耐用年数)

※ 斎場の維持管理費はH23 決算額。式場棟の管理費、人件費も含む。
 ※ 件数はH23

参考資料3 政令指定都市及び近隣火葬施設等の火葬炉使用料について

【政令指定都市】

No.	自治体名	市民無料	市民有料
1	札幌市	○	
2	仙台市		¥9,000
3	さいたま市		¥7,000
4	千葉市		¥6,000
5	横浜市		¥12,000
6	川崎市		¥3,000
7	相模原市	○	
8	新潟市	○	
9	静岡市	○	
10	浜松市	○	
11	名古屋市		¥5,000
12	京都市		¥15,000
13	大阪市		¥10,000
14	堺市		¥20,000
15	神戸市		¥12,000
16	岡山市		¥8,000
17	広島市		¥8,200
18	北九州市		¥10,000
19	福岡市		¥20,000
20	熊本市		¥6,000

* 20 政令市のうち 15 市(75%) で市民利用が有料

【神奈川県内】

No.	自治体名	市民無料	市民有料
1	横浜市(再)		¥12,000
2	川崎市(再)		¥3,000
3	相模原市(再)	○	
4	横須賀市	○	
5	平塚市	○	
6	小田原市	○	
7	茅ヶ崎市	○	
8	秦野市		¥1,000
9	厚木市		¥10,000
10	大和市		¥10,000
11	愛川町	○	

* 本市を除く県内の火葬場所在市町の状況
10 市町中、5 市町(50%)で市民利用が有料

【近隣火葬施設】

No.	自治体名	市民無料	市民有料
1	南多摩斎場	○	
2	八王子市斎場	○	
3	大和斎場		¥10,000
4	愛川聖苑	○	
5	上野原市葬斎場		¥20,000

* 5 施設中 2 施設(40%)で市民利用が有料

平成24年度

葬儀に対する意識、式場・火葬施設に
関するアンケート調査報告書

平成25年3月

相模原市

葬儀に対する意識、式場・火葬施設に関するアンケート

調査報告書（概要）

- 調査対象 本市在住の20歳以上の男女個人 3,000人（任意抽出）
- 実施時期 平成24年12月6日から同27日まで
- 調査内容 年齢、性別などの基本属性を含む15問。葬儀に対する関心、葬儀を行う場合の希望、葬儀経験の有無と葬儀で利用した施設など
- 回収人数 1,537人（51.2%）

【用語について】

- ・ 従来の形 通夜・告別式等を行い、参列された方々で故人をお見送りする葬儀
- ・ 家族葬 家族、親族やごく親しい方々だけで通夜・告別式等を行い、故人をお見送りする葬儀の方法
- ・ 一日葬 通夜は行わず火葬当日に告別式を行い、故人をお見送りする葬儀の方法
- ・ 直葬 通夜・告別式等を行わず、火葬だけを行い故人をお見送りする葬儀の方法

1 「基本属性」について

- (1) 回答者の年齢は、60歳代が約24%で最も多く、次いで40歳代、50歳代、70歳代が約17%となっている。
- (2) 回答者の性別は、男性が約45%、女性が約55%となっている。
- (3) 回答者の世帯の状況は、夫婦と子供の世帯が35%で最も多く、次いで夫婦のみの世帯が26%となっている。

2 「葬儀に対する意識」について

- (1) 家族葬への関心は高い。「かなり関心がある」と「少し関心がある」を合わせると、約85%の方が関心を示している。
- (2) 年代別では、家族葬への関心が、50歳代～70歳代で高い傾向にある。

3 「家族の葬儀の希望」について

- (1) 家族の葬儀の希望については、家族葬が約55%で、従来の形(25%)の2倍以上となっている。
- (2) 「葬儀に対する意識」で、一日葬と直葬に「かなり関心がある」割合は、約15～17%であったが、家族の葬儀の希望での選択はいずれも約7%で、関心の割合に対して、実際の希望は少なくなっている。

4 「自分の葬儀の希望」について

自分の葬儀の希望については、家族葬が約43%と最も多いが、直葬や家族の意向に任せたいという人もそれぞれ約14%いる。

5 「葬儀経験者の葬儀場所の選択」について

葬儀経験者の葬儀場所の選択については、民間の斎場（式場）が50%と最も多く、市営斎場（式場）は20%となっている。

6 「葬儀で利用した施設を選んだ理由」について

- (1) 民間斎場を選んだ理由は、複数回答で「故人・家族の希望」、「親類縁者が集まりやすい」、「参列者が便利だから」がそれぞれ約20%と多くなっている。
- (2) 市営斎場（式場）を選んだ理由は、「公営の施設で安心」が約68%で最も多く、「料金が安い」が約22%で続いている。
- (3) 「他の施設が空いていなかった」という理由で「民間の斎場」を利用した割合は、約7%と少ない。

7 「火葬に利用した施設」について

- (1) 火葬に利用した施設については、約59%が市営斎場を、約36%が市外の火葬施設を利用。
- (2) 市外の火葬施設を利用した地区別の割合は、藤野地区が約67%と最も高く、次いで東林地区の約52%、相模湖地区・小山地区の50%、田名地区の約46%となっており、市外の利用率が高い地区は、比較的各地区に分散している。

8 「葬儀経験者の市外火葬施設の選択理由」について

- (1) 葬儀経験者の市外火葬施設の選択理由は、「市外で亡くなった」が約67%で最も多く、次いで「市外の火葬施設が近かったから」が約18%となっている。
- (2) 地区別の選択理由では、「市外で亡くなった」では大きな差は見られなかったが、「市外の火葬施設が近かったから」では、藤野が約86%、次いで相模湖地区と上溝地区が50%と多くなっている。

9 「市営斎場までの希望する所要時間」について

市営斎場までの希望する所要時間は、1時間以内が約96%で、30分以内の希望は、50%となっている。

1 調査概要

- (1) 目的 市民の皆様の葬儀に対する意識や火葬施設の利用状況などを把握し、本市における「火葬場のあり方」に関する検討の参考とさせていただきます。
- (2) 調査地域 相模原市全域
- (3) 調査対象 相模原市在住の20歳以上の男女個人
- (4) 抽出数 3,000人
- (5) 抽出方法 住民基本台帳からの等間隔系統抽出
- (6) 実施方法 郵便調査法（郵送配布・郵送回収）
- (7) 調査時期 平成24年12月6日から12月27日まで
- (8) 設問数 基本属性を含め15問
- (9) 回答者数 1,537人 回答率51.2%

2 各設問と回答状況及び結果概要

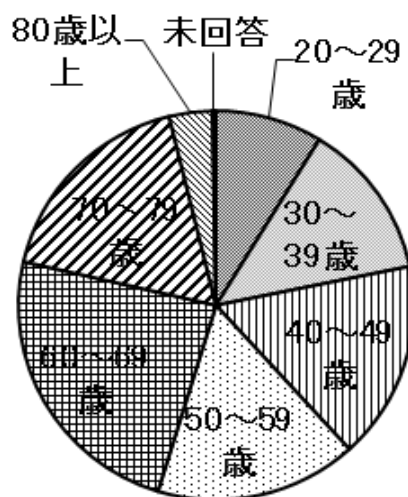
【基本的項目について伺います】

問1 あなたの年齢を選んで○をしてください。

1 20～29歳	4 50～59歳	7 80歳以上
2 30～39歳	5 60～69歳	
3 40～49歳	6 70～79歳	

〔回答状況〕

区分	回答数	回答分布
20～29歳	135	8.8%
30～39歳	200	13.0%
40～49歳	252	16.4%
50～59歳	255	16.6%
60～69歳	366	23.8%
70～79歳	270	17.6%
80歳以上	55	3.6%
未回答	4	0.2%
総数	1,537	100.0%



〔解説〕

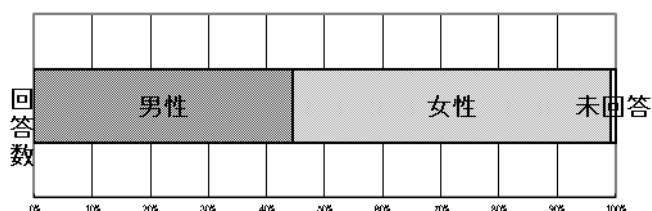
- ・回答された方の年齢層は表のとおりです。
- ・60歳代に次いで70歳代が多く、合計すると半数近い割合となっています。
- ・これに対して、80歳代、20歳代が少なくなっています。

問2 あなたの性別を選んで○をしてください。

- 1 男性 2 女性

〔回答状況〕

区分	回答数	回答分布
男性	685	44.5%
女性	840	54.7%
未回答	12	0.8%
総数	1,537	100.0%



〔解説〕

- ・回答された方の性別は表のとおりです。

問3 あなたが同居している人をすべて選んで○をしてください。

- 1 配偶者 4 同居者なし
 2 子ども 5 その他 ()
 3 親

〔回答状況〕

(対象者数：1,098人)

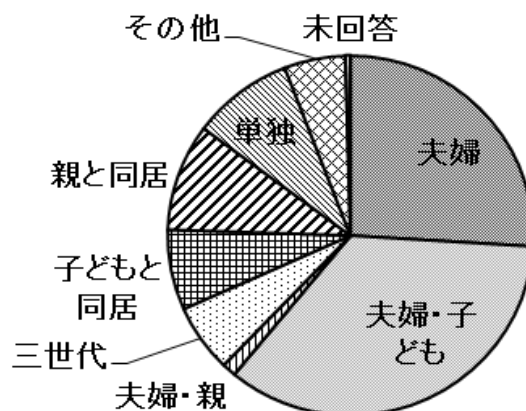
区分	回答数	回答分布
配偶者	1,058	68.8%
子ども	763	49.6%
親	306	19.9%
同居者なし	138	9.0%
その他	83	5.4%
未回答	7	0.5%

〔解説〕

- ・回答された方の同居の状況は表のとおりです。
- ※回答の複数選択を踏まえて、世帯構成を整理したものが、下の表となります。



区分	回答数	回答分布
夫婦	399	26.0%
夫婦・子ども	538	35.0%
夫婦・親	19	1.2%
三世帯	94	6.1%
子どもと同居	111	7.2%
親と同居	148	9.6%
単独	138	9.0%
その他	83	5.4%
未回答	7	0.5%
総数	1,537	100.0%



- ・夫婦と子どもの世帯が最も多く、35%となっています。次に多いのが夫婦世帯で、26%となっており、夫婦と子どもの世帯と合せると、61%を占めています。
- ・単身の世帯は9%となっています。

問4 あなたのお住まいの地区を1つだけ選んで○をしてください。

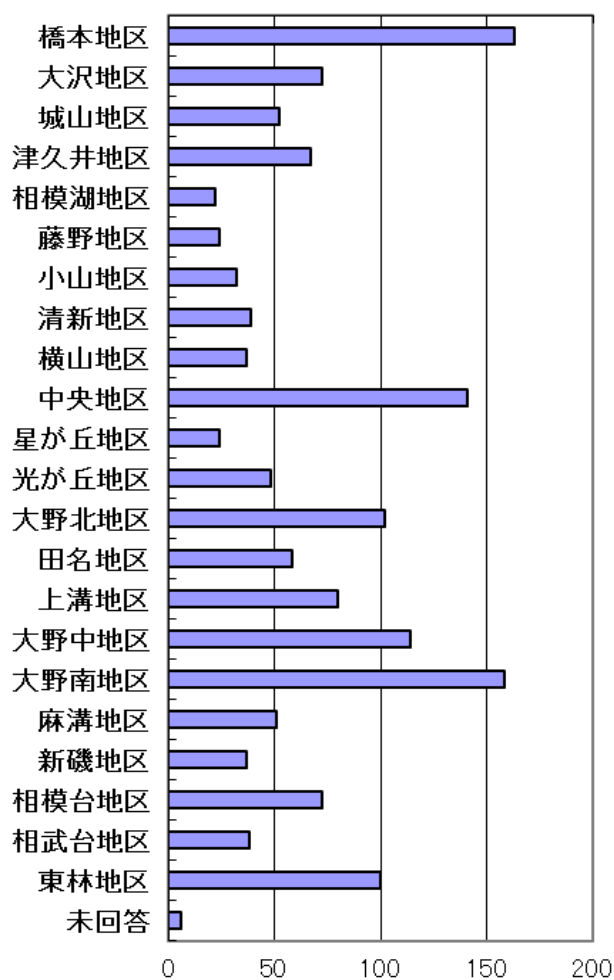
1 橋本地区	7 小山地区	13 大野北地区	19 新磯地区
2 大沢地区	8 清新地区	14 田名地区	20 相模台地区
3 城山地区	9 横山地区	15 上溝地区	21 相武台地区
4 津久井地区	10 中央地区	16 大野中地区	22 東林地区
5 相模湖地区	11 星が丘地区	17 大野南地区	
6 藤野地区	12 光が丘地区	18 麻溝地区	

〔回答状況〕

区分	回答数	回答分布
橋本地区	163	10.6%
大沢地区	72	4.7%
城山地区	52	3.4%
津久井地区	67	4.4%
相模湖地区	22	1.4%
藤野地区	24	1.6%
小山地区	32	2.1%
清新地区	39	2.5%
横山地区	37	2.4%
中央地区	141	9.2%
星が丘地区	24	1.6%
光が丘地区	48	3.1%
大野北地区	102	6.6%
田名地区	58	3.8%
上溝地区	80	5.1%
大野中地区	114	7.4%
大野南地区	158	10.3%
麻溝地区	51	3.3%
新磯地区	37	2.4%
相模台地区	72	4.7%
相武台地区	38	2.5%
東林地区	100	6.5%
未回答	6	0.4%
総数	1,537	100.0%

〔解説〕

・回答された方のお住まいの地区は表のとおりです。



【葬儀に対する意識について伺います】

問5 最近、家族葬など様々な葬儀の方法が行われていますが、あなたはこうした葬儀についてどうお考えになりますか。項目ごとに各選択肢から1つに○をつけてください。

(1) 家族、親族やごく親しい方々だけで通夜・告別式等を行い、故人をお見送りする葬儀の方法

1 かなり関心がある 2 少し関心がある 3 あまり関心がない 4 まったく関心がない

(2) 通夜は行わず火葬当日に告別式を行い、故人をお見送りする葬儀の方法

1 かなり関心がある 2 少し関心がある 3 あまり関心がない 4 まったく関心がない

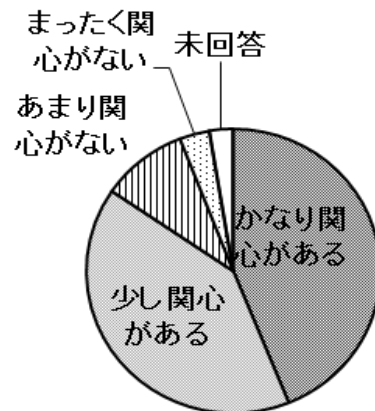
(3) 通夜・告別式等を行わず、火葬だけを行い故人をお見送りする葬儀の方法

1 かなり関心がある 2 少し関心がある 3 あまり関心がない 4 まったく関心がない

(1) 家族、親族やごく親しい方々だけで通夜・告別式等を行い、故人をお見送りする葬儀の方法

〔回答状況〕

区分	回答数	回答分布
かなり関心がある	674	43.9%
少し関心がある	625	40.7%
あまり関心がない	147	9.5%
まったく関心がない	51	3.3%
未回答	40	2.6%
総数	1,537	100.0%



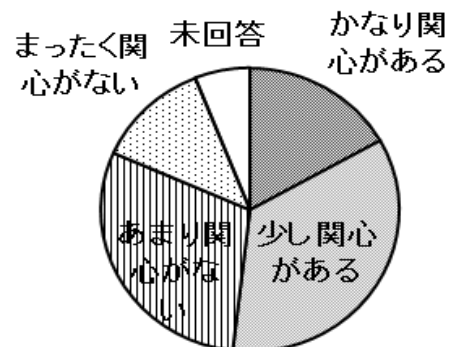
〔解説〕

- ・約44%の方が「かなり関心がある」と回答しており、次いで多い「少し関心がある」の約41%と合わせると、約85%の方が関心を示す結果となっています。

(2) 通夜は行わず火葬当日に告別式を行い、故人をお見送りする葬儀の方法

〔回答状況〕

区分	回答数	回答分布
かなり関心がある	259	16.9%
少し関心がある	538	35.0%
あまり関心がない	457	29.7%
まったく関心がない	191	12.4%
未回答	92	6.0%
総数	1,537	100.0%



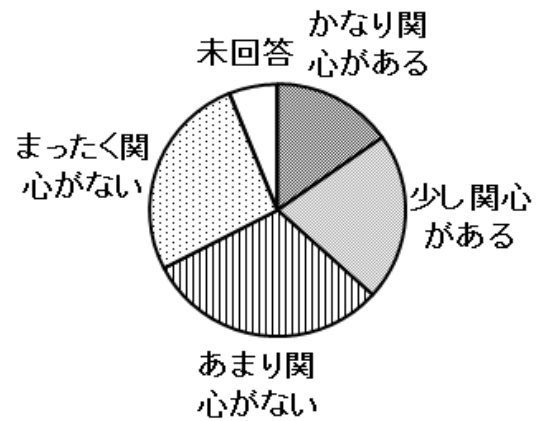
〔解説〕

- ・「少し関心がある」「かなり関心がある」という関心のある方が約52%を占めています。
- ・また、「あまり関心がない」「まったく関心がない」という関心の少ない方は約42%となっています。

(3) 通夜・告別式等を行わず、火葬だけを行い故人をお見送りする葬儀の方法

〔回答状況〕

区分	回答数	回答分布
かなり関心がある	234	15.2%
少し関心がある	330	21.5%
あまり関心がない	472	30.7%
まったく関心がない	407	26.5%
未回答	94	6.1%
総数	1,537	100.0%



〔解説〕

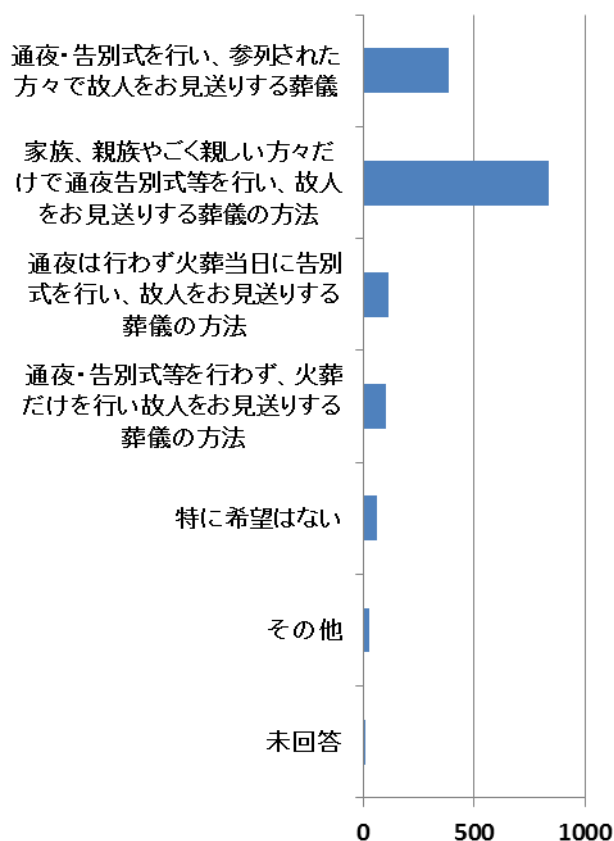
- ・「少し関心がある」「かなり関心がある」という関心のある方は約37%となっています。
- ・また、「あまり関心がない」「まったく関心がない」という関心の少ない方は約57%となっています。

問6 あなたが家族の葬儀を行うとした場合、どのような葬儀を行いたいですか。1つだけ選んで○をしてください。

- 1 通夜・告別式等を行い、参列された方々で故人をお見送りする葬儀
- 2 家族、親族やごく親しい方々のみで通夜・告別式等を行い、故人をお見送りする葬儀
- 3 通夜は行わず、火葬当日に告別式を行い、故人をお見送りする葬儀
- 4 通夜・告別式等を行わず、火葬だけを行い、故人をお見送りする葬儀
- 5 特に希望はない
- 6 その他 ()

〔回答状況〕

区分	回答数	回答分布
通夜・告別式を行い、参列された方々で故人をお見送りする葬儀	384	25.0%
家族、親族やごく親しい方々だけで通夜告別式等を行い、故人をお見送りする葬儀の方法	836	54.4%
通夜は行わず火葬当日に告別式を行い、故人をお見送りする葬儀の方法	114	7.4%
通夜・告別式等を行わず、火葬だけを行い故人をお見送りする葬儀の方法	102	6.6%
特に希望はない	64	4.2%
その他	26	1.7%
未回答	11	0.7%
総計	1,537	100.0%



〔解説〕

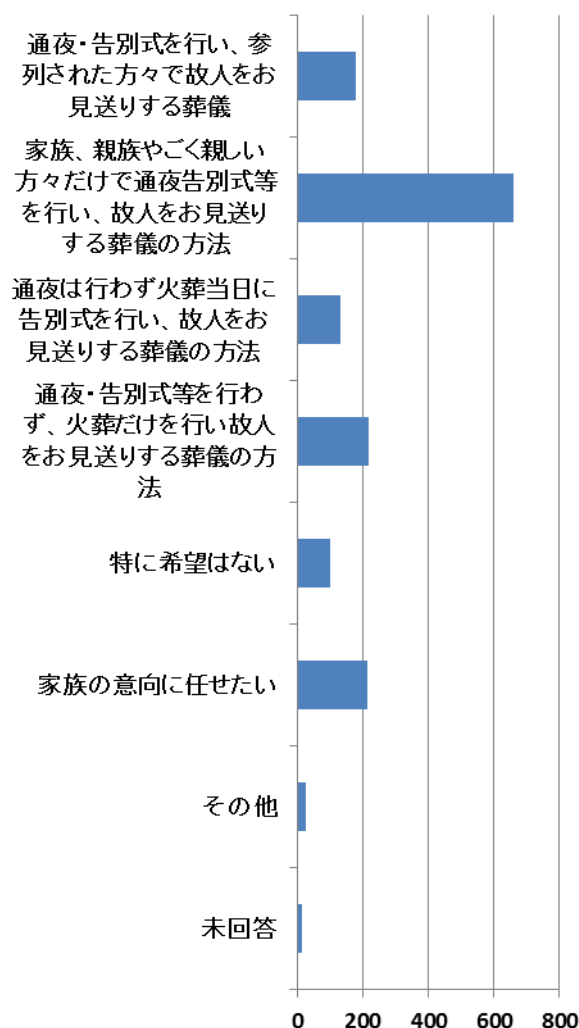
- ・「家族、親族やごく親しい方々だけで通夜告別式等を行い、故人をお見送りする葬儀の方法」を希望される方が約54%と最も多く、次いで「通夜・告別式を行い、参列された方々で故人をお見送りする葬儀」を希望される方の約25%となっています。
- ・「通夜は行わず火葬当日に告別式を行い、故人をお見送りする葬儀の方法」「通夜・告別式等を行わず、火葬だけを行い故人をお見送りする葬儀の方法」を希望される方は、合計で約11%となっています。

問7 あなたはあなた自身の葬儀をどのようにしてもらいたいと思いますか。1つだけ選んで○をしてください。

- 1 通夜・告別式等を行い、参列された方々で故人をお見送りする葬儀
- 2 家族、親族やごく親しい方々のみで通夜・告別式等を行い、故人をお見送りする葬儀
- 3 通夜は行わず、火葬当日に告別式を行い、故人をお見送りする葬儀
- 4 通夜・告別式等を行わず、火葬だけを行い、故人をお見送りする葬儀
- 5 特に希望はない
- 6 家族の意向に任せたい
- 7 その他 ()

〔回答状況〕

区分	回答数	回答分布
通夜・告別式を行い、参列された方々で故人をお見送りする葬儀	178	11.6%
家族、親族やごく親しい方々だけで通夜告別式等を行い、故人をお見送りする葬儀の方法	660	42.9%
通夜は行わず火葬当日に告別式を行い、故人をお見送りする葬儀の方法	132	8.6%
通夜・告別式等を行わず、火葬だけを行い故人をお見送りする葬儀の方法	218	14.2%
特に希望はない	99	6.4%
家族の意向に任せたい	213	13.9%
その他	23	1.5%
未回答	14	0.9%
総計	1,537	100.0%



〔解説〕

- ・「家族、親族やごく親しい方々だけで通夜告別式等を行い、故人をお見送りする葬儀の方法」を希望される方が最も多く約43%を占めています。
- ・次に多いのは「通夜・告別式等を行わず、火葬だけを行い故人をお見送りする葬儀の方法」で約14%となっており、その次が「家族の意向に任せたい」の約14%となっています。

【葬儀を行なった場所等について伺います】

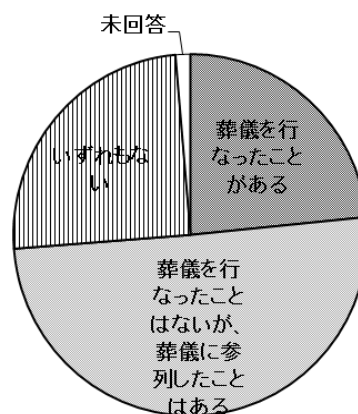
問8 あなたは、過去概ね3年以内に葬儀の経験がありますか。1つだけ選んで○をしてください。

- | | | |
|---|----------------------------|----------|
| 1 | 葬儀を行なったことがある (※) | (問 9 へ) |
| 2 | 葬儀を行なったことはないが、葬儀に参列したことはある | (問 14 へ) |
| 3 | いずれもない | (問 15 へ) |

※喪主に限らず、実際に葬儀に関わった方を含みます。

〔回答状況〕

区分	回答数	回答分布
葬儀を行なったことがある	360	23.4%
葬儀を行なったことはないが、葬儀に参列したことはある	774	50.3%
いずれもない	382	24.9%
未回答	21	1.4%
総計	1,537	100.0%



〔解説〕

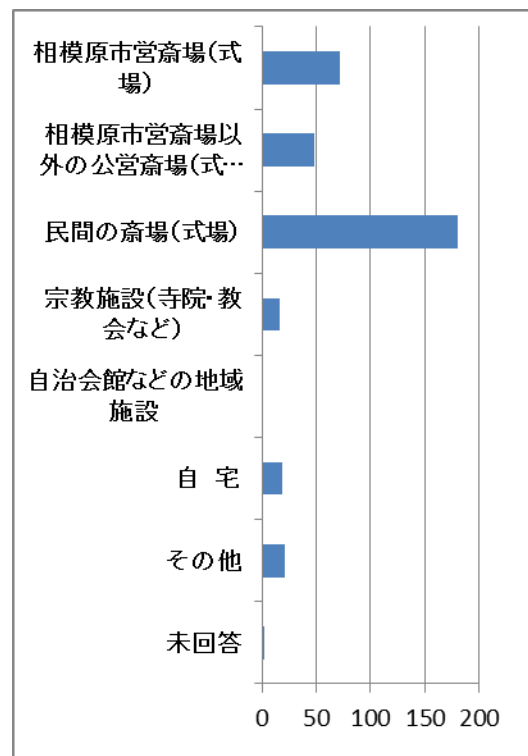
- ・「葬儀を行なったことはないが、葬儀に参列したことはある」が最も多く、約50%となっています。
- ・次に多いのは、「いずれもない」の約25%で、その次が「葬儀を行なったことがある」の約23%となっています。

問9 問8で「1 葬儀を行なったことがある」とお答えの方にお伺いします。通夜・告別式等はどこで行ないましたか。1つだけ選んで○をしてください。複数ある場合には最も近い時期の葬儀についてご記入ください。

- | | |
|----------------------|---------------|
| 1 相模原市営斎場（式場） | 5 自治会館などの地域施設 |
| 2 相模原市営斎場以外の公営斎場（式場） | 6 自宅 |
| 3 民間の斎場（式場） | 7 その他 |
| 4 宗教施設（寺院・教会など） | () |

〔回答状況〕

区分	回答数	回答分布
相模原市営斎場（式場）	72	20.0%
相模原市営斎場以外の公営斎場（式場）	48	13.3%
民間の斎場（式場）	180	50.0%
宗教施設（寺院・教会など）	17	4.7%
自治会館などの地域施設	1	0.3%
自宅	19	5.3%
その他	21	5.8%
未回答	2	0.6%
総計	360	100.0%



〔解説〕

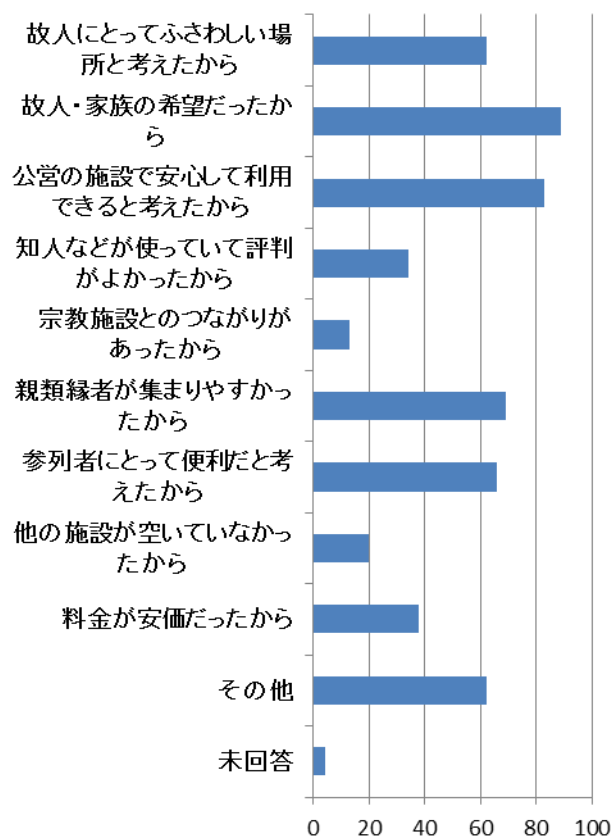
- ・「葬儀を行なったことがある」と回答された方が通夜・告別式を行なった場所としては民間の斎場（式場）が50%と最も多く、自宅を含む民間施設と合せると約66%となります。
- ・市営斎場（式場）を利用された方は20%で、他市の公営斎場と合せ、約33%の方が公営斎場を利用されています。

問10 問9で回答された理由に該当するものをすべて選んで○をしてください。

- 1 故人にとってふさわしい場所と考えたから
- 2 故人・家族の希望だったから
- 3 公営の施設で安心して利用できると考えたから
- 4 知人などが使っていて評判がよかったから
- 5 宗教施設とのつながりがあったから
- 6 親類縁者が集まりやすかったから
- 7 参列者にとって便利だと考えたから
- 8 他の施設が空いていなかったから
- 9 料金が安価だったから
- 10 その他 ()

〔回答状況〕 (対象者数=360人)

区分	回答数	回答分布
故人にとってふさわしい場所と考えたから	62	17.2%
故人・家族の希望だったから	89	24.7%
公営の施設で安心して利用できると考えたから	83	23.1%
知人などが使っていて評判がよかったから	34	9.4%
宗教施設とのつながりがあったから	13	3.6%
親類縁者が集まりやすかったから	69	19.2%
参列者にとって便利だと考えたから	66	18.3%
他の施設が空いていなかったから	20	5.6%
料金が安価だったから	38	10.6%
その他	62	17.2%
未回答	4	1.1%



〔解説〕

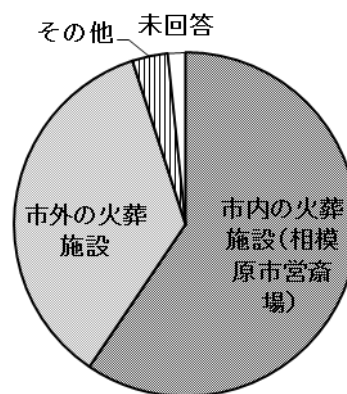
- ・対象者360人のうち「故人・家族の希望だったから」が最も多く、約25%となっています。
- ・次に多いのが「公営の施設で安心して利用できると考えたから」で約23%、次いで「親類縁者が集まりやすかったから」が約19%で、次が「参列者にとって便利だと考えたから」が約18%となっています。

問11 火葬に利用された施設を1つだけ選んで○をしてください。複数ある場合には最も近い時期の火葬についてご記入ください。

- 1 市内の火葬施設（相模原市営斎場） (問14へ)
 2 市外の火葬施設 (問12へ)
 3 その他（ ） (問14へ)

〔回答状況〕

区分	回答数	回答分布
市内の火葬施設(相模原市営斎場)	214	59.4%
市外の火葬施設	128	35.6%
その他	12	3.3%
未回答	6	1.7%
総計	360	100.0%



〔解説〕

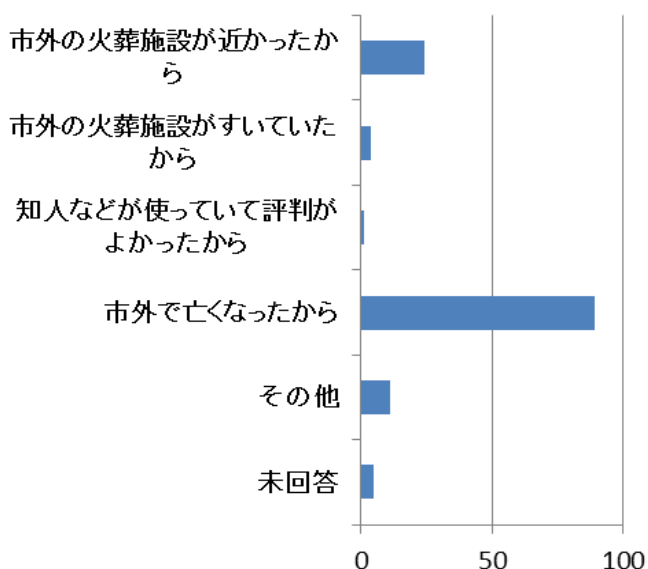
- ・対象者360人のうち、約59%の方が相模原市営斎場を利用されており、市外の火葬施設の利用は約36%となっています。

問12 問11で「2 市外の火葬施設」とお答えの方にお伺いします。相模原市営斎場（火葬場）を利用しなかった理由に該当するものを1つだけ選んで○をしてください。

- | | |
|-----------------------|--------|
| 1 市外の火葬施設が近かったから | (問13へ) |
| 2 市外の火葬施設がすいていたから | (問15へ) |
| 3 知人などが使っていて評判がよかったから | |
| 4 市外で亡くなったから | |
| 5 その他 () | |

〔回答状況〕

区分	回答数	回答分布
市外の火葬施設が近かったから	24	17.9%
市外の火葬施設がすいていたから	4	3.0%
知人などが使っていて評判がよかったから	1	0.8%
市外で亡くなったから	89	66.4%
その他	11	8.2%
未回答	5	3.7%
総計	134	100.0%



〔解説〕

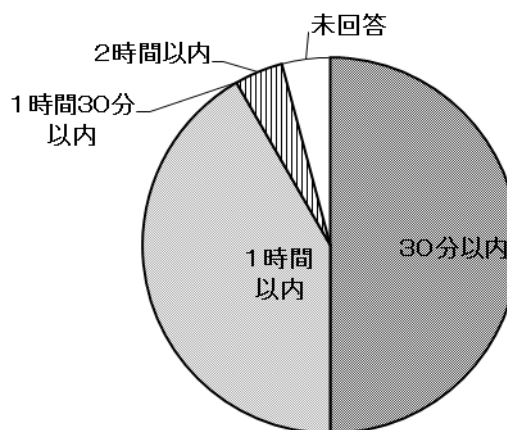
- ・市外の火葬施設を利用された理由として最も多いのは「市外で亡くなったから」で、約66%となっています。
- ・次に多いのは「市外の火葬施設が近かったから」で、約18%となっています。

問13 問12で「1 市外の火葬施設が近かったから」とお答えの方にお伺いします。
 ご自宅から車で移動すると仮定した場合、相模原市営斎場までの所要時間がどのくらい
 までであれば利用しようと思われませんか。1つだけ選んで○をしてください。

- | | |
|------------|---------|
| 1 30分以内 | 4 2時間以内 |
| 2 1時間以内 | 5 その他 |
| 3 1時間30分以内 | () |

〔回答状況〕

区分	回答数	回答分布
30分以内	12	50.0%
1時間以内	10	41.6%
1時間30分以内	0	0.0%
2時間以内	1	4.2%
その他		0.0%
未回答	1	4.2%
総計	24	100.0%

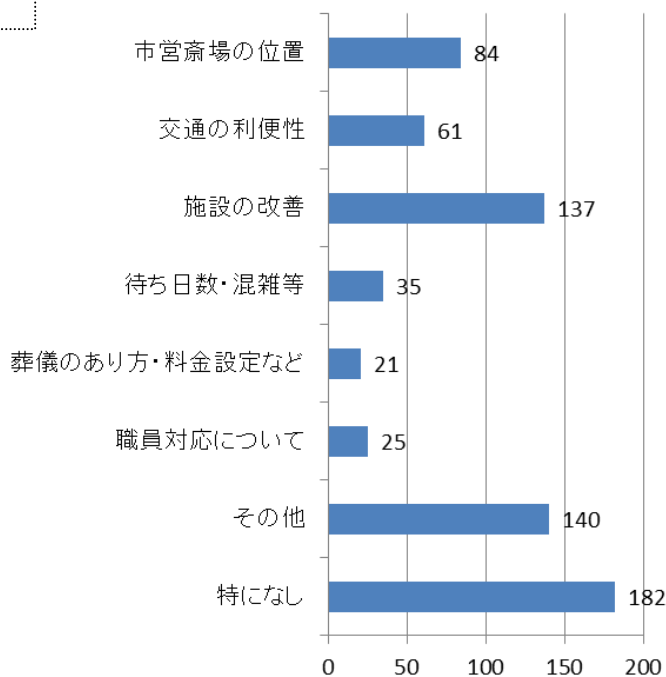
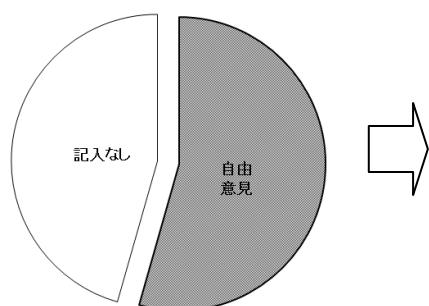


〔解説〕

- ・相模原市営斎場までの所要時間の希望としては、1時間以内が約92%となっています。
- ・なお、30分以内の希望は、50%となっています。

問14 相模原市市営斎場の利用について、ご不便な点、改善が必要な点などがございましたらご記入ください。

603人、54.4%の方からご意見をいただきました。



問15 その他、本市における火葬場のあり方について、ご意見がございましたらご記入ください。

524人、34.1%の方からご意見をいただきました。

